

令和5年度

第4回芸西村学校運営協議会

芸西村立芸西中学校

令和6年2月26日





学校目標 地域とともに輝く学校



1 知（学力向上）

チーム A（知）	チーム B（徳）	チーム C（体）
◎英語・理科・数学	◎社会・国語・音楽	◎英語・保体・美術・養護

図1 教科共通の取組（教師用）

教科共通の取組(指導と評価の一体化)

「指導と評価の一体化(ルーブリック(ゴール)を明確に)」

- ①育成を目指す資質・能力を明確にする。(何を理解しているか/何ができるか/どう使うか/どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)
- ②働かせたい教科特有の見方・考え方を明確にする。
- ③C評価をB評価に、B評価をA評価に引き上げる手だてを明確にする。

「スタンダードに基づく授業(ゴールへの道筋を明確に)」

- ④課題設定の工夫(本気で「やってみよう」と感じさせる、生徒の経験知をフル活用させる)
- ⑤主体的・対話的で深い学びに向かうことができる授業づくりを工夫する。
- ⑥学んだ過程(教科特有の見方・考え方を生かす)を自分の言葉で振り返ることができる。

「他者に説明する場の設定(根拠を明確に)」

- ⑦自分の考えを持ち、対話(仲間、教員、先哲等)を通して考えを広げたり深めたりさせる。
- ⑧表現する機会を多く設定する。(思考と表現を繰り返す、再構築させる。一往復半の往還)
- ⑨協働して課題解決することで協働することの良さを実感させる。(価値付ける)

図2 教科共通の取組（生徒用）

教科共通の取組(力がつく授業をつくりあげよう！)

「めあて(ゴール)を意識しよう！」

- ①「何が今日の授業のゴールなのか？」を意識する。
- ②何に着目し、何をを使ってどのように考えればよいのか見通しを立てる。
- ③わからないときにどう対処するか自分で選択できる。

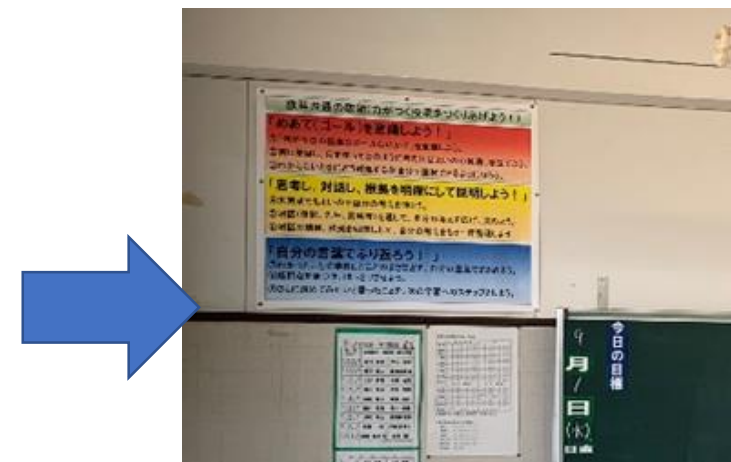
「思考し、対話し、根拠を明確にして説明しよう！」

- ④未完成でもよいので自分の考えを持つ。
- ⑤対話(仲間、先生、資料等)を通して、自分の考えを広げ、深める。
- ⑥対話の結果、根拠を明確にして、自分の考えをもう一度整理する。

「自分の言葉でふり返ろう！」

- ⑦わかったことや学習したことのよさなどを、自分の言葉でまとめる。
- ⑧疑問点を見つけ、はっきりさせる。
- ⑨さらに深めてみたいと思ったことを、次の学習へのステップとする。

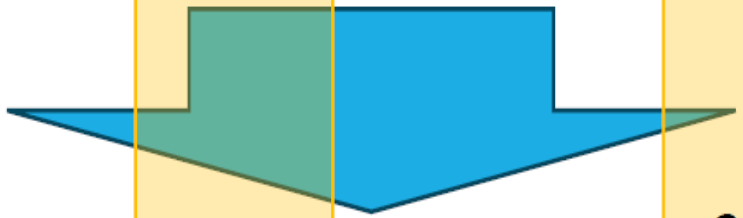
教室に掲示し確認、授業で意識



生徒が主体的に取り組む授業づくりに取り組む

- プレ全校授業研～芸西中が取り組んでいる授業を全校で確認
1・2年生が3年生の姿から学ぶ
- 講師を招聘しての校内研 講師 深沢幹彦先生（年間3回）
生徒の主体的な学びを中心とした授業づくりを目指して
- 各チーム内授業研 一人1回
- 授業参観週間（学期に1回実施 小中で交流）
- 授業改善プラン 5教科（国語 数学 社会 理科 英語） 年間 2回
- 研究プレゼン 各教員が校外研修の内容を伝達講習
- 全国学力学習状況調査・高知県学力状況調査等の結果を活用
資料の読み取りや活用等を全教科で取り組んでいく
課題設定の工夫
- 授業評価アンケートの実施（学期に1回実施）

目標値	強肯定70%以上			強肯定70%以上			強肯定70%以上			強肯定70%以上		
	B. 「やってみたい」と感じる課題やめあてでしたか			D. 自分の考えを広めたり、深めたりするなど、思考する時間がありましたか。			E. 根拠をもとに自分の考えを説明したり、書いたりする時間がありましたか。			G. 授業の振り返りの時間がありましたか。		
	肯定群 [%]	<u>強肯定 [%]</u>	弱肯定 [%]	肯定群 [%]	<u>強肯定 [%]</u>	弱肯定 [%]	肯定群 [%]	<u>強肯定 [%]</u>	弱肯定 [%]	肯定群 [%]	<u>強肯定 [%]</u>	弱肯定 [%]
1学期												
全教科平均	90.5	<u>47.1</u>	43.3	92.3	<u>56.4</u>	35.9	88.2	<u>56.1</u>	32.6	91.2	<u>57.1</u>	34.3
2学期												
全教科平均	94.9	<u>54.1</u>	40.8	93.2	<u>61.9</u>	31.2	93.2	<u>59.0</u>	33.9	90.5	<u>53.3</u>	37.5



+7pt

+5.5pt

+2.9pt

-3.8pt

(1) 問題の意図の把握

→授業における課題の設定の工夫を行うようにし、何が問題となっているかを生徒自身に考えさせる機会を積極的につくる。

(2) 問題解決に必要な情報の抽出

→課題解決型の授業構成を意識して取り入れるとともに、必要な教科特有の見方・考え方に着目させながら、対話等を通して協働的に課題解決を生徒に経験させていく。

(3) 思考判断表現の問題に課題

→まとめや振り返りの方法に着目することも次年度取り組むことができればよい。

(4) 学力の二極化

→身に付けさせたい力や指導と評価の一体化を意識し、生徒の進捗を随時把握し必要な手立てを柔軟に行っていく。

(5) 家庭学習の工夫

→基礎学力の定着を目指して家庭学習の仕方や内容について改善していく。

(ICTの活用を含む)

2 徳

【道徳意識調査】

④自分には、よいところがあると思う・・・53.7%→73.4%

⑤将来の夢や目標を持っている・・・・・・・・・・65.2%→66.1%

目標・・・・・・・・75%以上

【Q-Uアンケート】

学校生活不満群・・・・・・・・・・15% →**22%**

【学校評価アンケート】・・・・・・・・11月中に実施予定←HPで公開

【キャリアパスポートの活用】 行事等の機会を通じて活用

【読書アンケート】・・・・・・・・肯定群70% ← さらに向上を目指す

3 健康安全

【体力や健康的な生活習慣の確立】

○体力の向上

学年によっては男女ともに一部低下

○生活点検を実施・・・保健だよりで啓発

○バランスの良い食事

三色食品群の摂取率は42.6%で昨年度末より増加（+2.1%）○

○肥満度20%以上の生徒は18.1%で増加（+10.1%）

【重要課題】

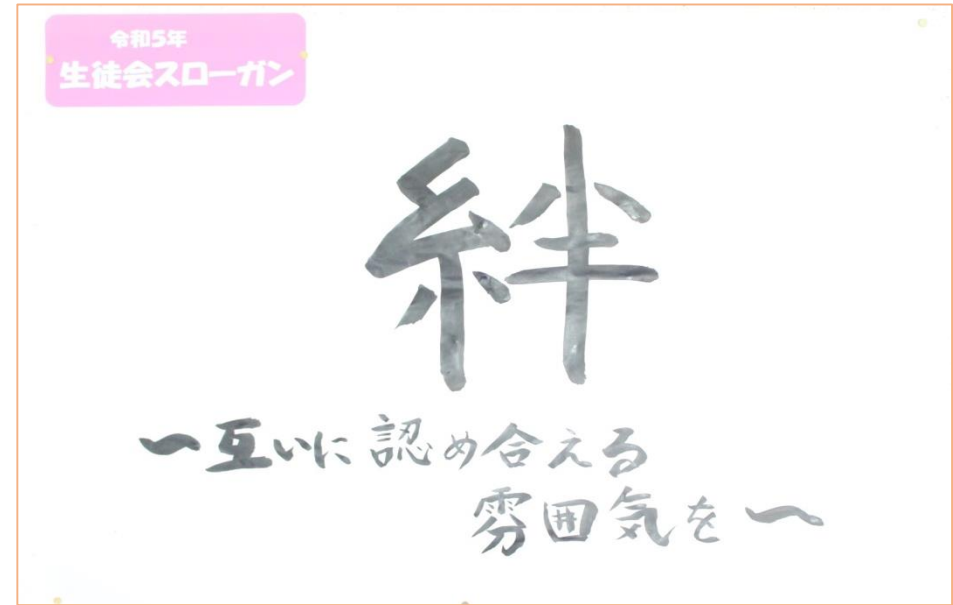
スマホ・タブレット・ゲームなどとの関わり方

4 不登校対応

居場所づくり絆づくりを意識する

新規の不登校生徒を出さない！
組織的な取組を進める！

- 安心安全な学校や学級づくり
- 職員朝礼 企画委員会 職員会などで、常に生徒の情報共有
- QUや学校生活アンケートなどを活用、結果を踏まえて2者面談の実施
- SSWやSCや福祉など外部関係機関との連携、支援会の実施
- 校内研修で、生徒理解や支援について研修と共通理解
- きもちメーターの活用
- **生徒同士の関係作りの機会を増やす（ソーシャルスキルトレーニング等）**



ICTの活用

- ・ルールやマナーを身に付けさせる。
- ・より良い活用方法を探っていく。



安全教育（防災教育）

- ・継続した取組
- ・安全に対する意識（自分を守る）向上





地域で学ぶ/総合的な学習



地域に貢献

ボランティア活動への参加

地域の方の支援



○道徳アンケート

「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある。」

．．．．．66.7%→70.3%



本年度もお世話になりました。来年度もよろしくおねがいます。